

とんぐりころころだより 26-2号

ポスター発表会場の様子



体育館にたくさんポスターが掲示され、参加者は自由に回ります。発表者は、説明責任があります。

平成26年6月16日発行 福島恭子・大森志穂

日本保育学会※参加・発表

※日本保育学会(概略)

乳幼児の健全な成長のために、保育の実践者と研究者が協力する場。保育に関する意識を持ち、研究に熱意を持つ人を会員として歓迎する(入会には、会員の推薦が必要)。福島と大森は、10年程前から毎年仲間と一緒に学会での発表と続けています。この3年は(それは別に、とんぐりころころの保育についても発表しています)。

今年(は、5月17、18日の2日間 大阪で行われました。私たちが、歩くことと通して自分をつくる保育-2歳児の拾ったり取ったりする遊びと考える-」とテーマに発表しました。私たちのポスターの前で足を止めてくださる方々に説明したり、質問にお答えしたり、持ち時間2時間の間、ずらりと話していたように思います。用意した自己布資料30枚を全て「よく!」ポスター発表としては盛況だったと言えます。

私たちが説明させていただいた方たちは、幼稚園・保育園の先生、大学生、保育雑誌の編集者、年齢層も幅広かったです。

発表の概要>
2歳児の発達の特徴は、歩きたい、自分で決めたい気持ちの高まりと表象(イマジ、言葉)の発達です。
子どもは、外を歩まながら、石、草花、木の葉や実、枝等を拾ったり取ったりする。ただただ取る(たさん取る)、ポケットに入れて大事にする、保育者に渡す、踏んたり皮をむいたり車云ったり、散らかしたり、お店やさんの品物、料理に「よったり、形や大きさ、色にこだわって取ったり等々自分で決めて、自分のものに、好きに遊ぶことが出来るのです。
その結果、子どもは自然物とよく知ると共に、体の様々な感覚と働かせることが出来ます。これらのことは2歳児にとっても拾ったり取ったりする楽しさなのです。加えて、保育者や友達から刺激を受け、また取りたい、また、遊びたいという欲求が生じます。
拾ったり取ったりする遊びは、2歳児に適った遊びなのです。

<参加者の声>、反応の一部>
~ 男子大学生 その1 ~

「教育実習は、5歳児だったんで、2歳児がこんな様子で、こんなに魅力的だとは知りませんでした。勉強強になりました。プログラム是非見たいと思います。」

~ 保育雑誌の編集者 ~

写真の子どもの表情や、外の自然の中で遊ぶ様子がアール方が高かったようです。「写真と使わせていただくことはできませんとお尋ねがありました。」

別の編集者の方は、0~2歳児の学びという本を作られるとのこと。どんぐりころころの教育が本になるのも夢ではないかわりはない、と期待がふくらんでいます。

~ 保育者 その1 ~

私たちの発表のポスターと見ながら、一所懸命メモを取っていました。少いですが、その方の学びにつなげたのでした。うれしいです。

~ 保育者 その2 ~

「拾ったり取ったりしたもので、何か作品と作るのでは?」と質問され、「おせんべいになり、お金になり、砂遊びに使ったり、とくやケーキになりはします。3歳児は、時期と見て、造形活動もしますか...」とお答えすると、「それがいいですね、

形に残さないという方がいいですね。」という反応がありました。

~ 保育者 その3 ~

おちやでは「よち」で遊んでいるから、倉庫で遊ぶ、遊ぶのがよいね、自分で遊ぶにすればいいですね。おちやでは遊ぶ方が決まっています。

~ 男子大学生 その2 ~

先生方は、あち手口も出さぬとのことですが、子どものモデルと作る動きはされているんですね...。(という学生さんから、鋭い指摘でした。)



今回の発表を終えて、拙い内容ではあっても、発表することで、刺激を与え、私たちが刺激を受けられることができました。そして、つくづく、保谷地域の自然が、あってこそ、とんぐりころころの教育だと思えます。